

## 成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデルに関する研究：

### ロジックモデル推進と指標検討の具体例

研究分担者 後藤 あや（福島県立医科大学総合科学教育研究センター）

研究協力者 新井 猛浩（山形大学地域教育文化学部）

#### 研究要旨

「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」に基づく施策の実施状況に関する評価の指標には、「PDCA (plan-do-check-act) サイクル実施に関する項目が含まれている。ロジックモデルは主に国際協力の分野で使われてきた、PDCA サイクルのツールである。昨年度の報告書では、ロジックモデルの代表的な手法を紹介し、実際に自治体のデータに基づいた事業計画書作成の事例について検討した。本年度は、ロジックモデル作成に反映するその地域なりのロジック（活動から目標のつながり）の検討事例と、ロジックモデルの手法を推進する上で必要な研修の参加者アンケートの結果について提示した。

#### A. 研究目的

2021年2月に定められた「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」（成育医療等基本方針）に基づく施策の全体的な実施状況の評価指標として、PDCA (plan-do-check-act) サイクルを実施するための成育保健医療計画策定についての項目が含まれている。地方公共団体には、「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」（成育基本法）に定める基本理念に則り、施策の実施状況等を客観的に評価して必要な見直しにつなげるPDCAサイクルに基づく取組を適切に実施することが求められる。

ロジックモデルは主に国際協力の分野で使われてきたPDCAサイクルのツールであり、日本においては、1990年代に国際開発機構（FASID）が日本版のProject Cycle

Management (PCM)を開発し、国際協力機構(JICA)で採用されている。PCM手法は、問題の原因を分析し、解決策を探り、対策を実行するための事業計画書(Project design matrix, PDM)を作成する。このPDMを用いて、事業の実施状況をモニタリング、そして最終評価とその後の事業改善と継続につなげる。重要な点は「ロジック（論理）」である。この活動をする、このような成果が得られ、この目標を達成することができるという、論理的な流れを計画の中で明確にする。この手法の詳細は、昨年度の報告書で述べた(1)。

本報告書では、「成育医療等基本方針に基づく施策の実施状況に関する評価指標」に関連した自治体のデータに基づいた、PDMに入れる目標の選定の具体例と、福島県内で実施したPCM手法に関する研修に参加した保健師の感想について提示した。

## B. 研究方法

### 1. 自治体データを用いた指標選定例

昨年度の報告書同様、福島市子ども子育て支援事業計画策定にかかる2018年度ニーズ調査報告書のデータを用いた。その中でも地域の子育て環境（ソーシャル・キャピタル）に関する指標に注目して分析した。「健やか親子21（第2次）」では「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」が指標として取り上げられており、地域社会全体で子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくりを推進している。孤立した子育てにより生育環境の悪化につながることを防ぐよう、地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流や見守り体制の強化が必要である。

調査の時期は2018年12月で、未就学児世帯と小学生世帯の保護者を対象としてそれぞれ実施された。本報告で分析対象としたのは、小学生世帯の保護者を対象としたデータである。調査対象者は無作為抽出により2,900人が抽出され、調査票は学校を経由して配布され回収された。有効回答率は86.9%だった。調査は匿名で実施され、個人が特定されない形で市からデータの提供を受けた。

注目した変数は、対象者を層別化する変数として家計のゆとり、アウトカム指標としては、福島市の子育て環境の満足度である。満足度に関連する要因としては、以下の項目について分析した：児の学年、兄弟の人数、配偶者の有無、主な子育ての担い手、子育てについて相談や協力を求められる相手の有無、子育ての自信、母親の就労状況、放課後児童クラブの利用状況である。

家計の状況については、ゆとりがある、ややゆとりがある、ふつう、やや苦しい、大変苦しいの5件法で回答を求め、やや苦しいまたは大変苦しいと回答したものを家計の状況が苦しいとした。子育て環境や支援への満足度につい

ては5段階評価で回答を求め、1と2を低評価、3-5を中・高評価とした。児の学年は1-2年生と3-6年生にまとめ、低学年と中・高学年とした。主な子育ての担い手については父母ともにおよび主に母とした。子育てについて相談や協力を求められる相手について、どちらもいるか否かとした。母親の就労状況についてはフルタイムで働いているか否かとした。放課後児童クラブの利用状況については、利用できている・利用希望なしと利用できていないとし、利用できていない理由も調べた。

### 2. PCM研修に参加した保健師の感想

福島県立医科大学は福島県と協力して、2011年の震災後に県保健師現任教育の枠組みの中で、様々なテーマについて研修を実施した。大学内の複数部署が協力して外部資金を得て運営したが、本稿では2018~2020年度に実施したPCMに関する研修6回分の参加者アンケートを用いた。主に自由記載を、フリーのテキスト解析ソフトであるKH Coderにより分析した。

（倫理面への配慮）

上記1の分析に用いたデータは福島市が実施した無記名アンケートから作成されたものである。匿名データの二次利用であるため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に該当せず、福島県立医科大学の倫理審査は不要とされた。同様に、上記2の分析に用いた無記名アンケートの事業評価用データも、倫理指針に該当しない。

## C. 研究結果

### 1. 自治体データを用いた指標選定例

対象者の特徴は次の通りである（表1）。低学年は29.5%、第1子は27.8%だった。配偶者のいない者は11.5%で、主な子育ての担い手

が母親のみとなっているのは 45.8%だった。子育てについて相談や協力を求められる相手のどちらかがいないかどちらもいない者は 11.5%、子育てに自信が持てないことがある者は 62.2%、そして、地域の子育て環境や支援への満足度が低い者は 39.5%だった。家計の状況が苦しいと答えた者は 34.3%で、フルタイムで就労している母親は 43.7%だった。利用希望があるにもかかわらず放課後児童クラブが利用できていない者は 9.6%だった。

家計の状況にゆとりがあるかふつうと答えた群の地域における、子育ての環境や支援への満足度と関連要因を表 2 に示した。単変量解析では、児の学年、兄弟の人数、配偶者の有無、主な子育ての担い手、子育てに自信が持てないこと、母親の就労状況、放課後児童クラブの利用状況について、それぞれ満足度と有意な関連がみられた。これらを多変量解析に投入したところ、児の学年、配偶者の有無、子育てに自信の持てないこと、母親の就労状況、そして放課後児童クラブについて有意な関連がみられた。

家計が苦しいと答えた群の地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因を表 3 に示した。単変量解析では、子育てについての相談や協力先の相手、放課後児童クラブの利用状況について有意な関連がみられた。多変量解析から、これらは独立して満足度に影響していた。

なお、満足度について 5 段階評価の回答から低群、中群、高群の 3 群に分けて対象者の傾向を分析したが、中群と高群とで特に差異はみられなかった。

放課後児童クラブが利用できていない理由は料金が安い (71 人、29.7%)、学区にない・知らない (65 人、27.2%)、定員オーバー (41 人、17.2%)、その他 (62 人、25.9%) だった。

## 2. PCM 研修に参加した保健師の感想

研修参加者 93 人において、PCM 手法を用いた演習での話し合いが今後の保健活動に役立つか 5 段階スケールで回答を求めたところ、40 人 (43%) が「大変そう思う」、44 人 (48%) が「そう思う」とした。自由記載から抽出された頻出語 (名詞と動詞のみ) 同士の関連を示す共起ネットワークから、主に以下 3 カテゴリーが抽出された (図 1) : 「1. 研修内容についての意見」(含まれる語 : 内容、具体、資料、業務、市町村、データ、地域、書く、分かる)、 「2. グループワークからの学び」(グループ、ワーク、職場、視点、感じる、行う、振り返る)、 「3. 事業の振り返り」(事業、原因、因果、自分、アイデア、考え方、考える、見直す、受ける)。

各カテゴリーの代表的な意見を以下に示した。

1. 「業務として、市町村支援として市町村が業務に使えるデータ分析の提供とよくあるが、具体的に何をしたらよいか分からず困っています。」「事業評価について、具体例を評価してみるワークもほしいです。」
2. 「グループワークのような情報の整理を職場でも行いたいと思います。」
3. 「原因と結果の因果関係を考えながら事業計画を考えていきたい。」

## D. 考察

### 1. 自治体データを用いた指標選定例

本研究の結果から、家庭の経済状況に関わらず、放課後児童クラブ利用のニーズが子育ての環境や支援への満足度と関連することが明らかになった。日本では放課後児童クラブが急拡大を続けており (図 2)、厚生労働省が推進する放課後児童健全育成事業により放課後児童クラブの登録児童数およびクラブ数ともに近年

着実に増加してきている。また、障害児の受け入れ児童数・クラブ数も共に年々着実に増加してきており、特に障害児受け入れクラブ数の割合が大きく増加している。それでも量的にも質的にも社会的需要を満たしているとは言えず、質的な充実においては制度や政策の拡充に加えて、学術的な下支えが必要との指摘がある(2)。

海外の先行研究では、放課後の子どもの所在について親が知っていることは、子どものメンタルヘルスの向上に関連することが報告されている(3)。放課後児童クラブは安全な場所と認識されており(4)、子どもの創造的自己効力感を高めるとの報告もある(5)。また、子どものメンタルヘルスの向上を目的に、音楽を用いた放課後児童クラブの評価も行われている(6)。さらに、経済状況に関わらず、子どもの放課後プログラム参加が親のうつリスクを減らすことも明らかになっている(7)。

米国の先行研究では、親と子どもが持つ放課後プログラムへの期待について調査を行った(4)。親は子どもの学力向上を期待し、子どもは様々なアクティビティや人間関係を豊かにする場として期待しており、そのバランスを取ることが重要であると述べている。

本研究の経済状況が苦しい群では、地域における子育て環境や支援への満足度が低い者の割合が高く、その関連要因として放課後児童クラブの利用状況と、子育てについて相談や協力が得られる相手の有無が影響していた。親が不在中の子どもの居場所を確保し、安心して仕事に出られるような支援と、そのような場で育児支援も得られるような工夫が求められると言える。

経済状況によりゆとりがある群でも、放課後児童クラブの利用状況以外に、低学年、配偶者無、育児の自信無、そしてフルタイム勤務が、

地域における子育て環境や支援への満足度が低いことに関連していた。つまり、経済状況が苦しい群と同様に、子どもの居場所と育児支援の組み合わせたサービスが必要である。

これらの結果から、放課後児童クラブの量と質の充実が「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」の上昇に結び付くと考えられる。このロジックを、PDMの活動立案と評価指標の選定に反映するとよい。

## 2. PCM研修に参加した保健師の感想

PCM研修は保健活動に役立つと、受講者の多くが回答した。また、研修を受講したことにより、PCM手法の一番重要な点である因果関係のつながり、土台となるエビデンスをつくることの難しさ、そしてグループワークによる意見交換の大切さを意識するようになったことが示唆された。さらに、研修後に実際に使うことが事業評価の継続につながると考えられる。

## E. 結論

地域のデータを分析することにより、地域の現状を反映したロジックモデルを作ることができる。ロジックモデル作成についての研修を実施することで、受講者は学んだ知識と技術を実践で応用していくことが期待され、これがエビデンスとその論理に基づく事業運営の普及の要となる。

### 【参考文献】

- 1) 後藤あや, 新井猛浩. 成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデルに関する研究 分担報告書: 成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデルに関する研究. <https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/156169>
- 2) 中田周作. 放課後児童クラブの社会的位

- 置づけ. 中国学園紀要. 2014; 13: 147-156.
- 3) Kreski NT, Riehm KE, Cerdá M, et al. Parenting practices and adolescent internalizing symptoms in the United States, 1991-2019. J Adolesc Health. 2023; 72: 189-196.
- 4) Cornelli Sanderson R, Richards MH. The after-school needs and resources of a low-income urban community: surveying youth and parents for community change. Am J Community Psychol. 2010; 45: 430-440.
- 5) Liang CC, Yuan YH. Exploring children's creative self-efficacy affected by after-school program and parent-child relationships. Front Psychol. 2020; 11: 2237.
- 6) Hedemann ER, Frazier SL. Leveraging after-school programs to minimize risks for internalizing symptoms among urban youth: weaving together music education and social development. Adm Policy Ment Health. 2017; 44: 756-770.
- 7) Daly NJ, Parsons M, Blondino C, Clifford JS, Prom-Wormley E. Association between caregiver depression and child after-school program participation. J Fam Soc Work. 2021; 24(3): 245-260.

#### 【謝辞】

データ 1 の提供にご協力いただいた福島市こども未来部こども政策課と、データ 2 の整理にご協力いただいた本田香織様に御礼申し上げます。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 後藤あや, 新井猛浩, 秋山有佳, 山縣然太郎. 成育基本法における小児保健の推進戦略: 成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデル. 小児保健研究. 2023; 82: 1-20.

##### 2. 学会発表

- 1) 後藤あや. 成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデル. 第 69 回日本小児保健協会学術集会. 2022 年 6 月 25 日(三重)

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

表 1. 対象者の属性

	N	%
児の学年		
低学年	730	29.5
中・高学年	1746	70.5
兄弟の人数（本人含む）		
1人	683	27.8
2人以上	1778	72.2
配偶者の有無		
あり	2200	88.5
なし	286	11.5
主な子育ての担い手		
父母ともに	1287	54.2
主に母	1086	45.8
相談や協力先の相手		
どちらもいる	2221	88.5
どちらかいない・いない	290	11.5
子育てに自信持てないこと		
ある	1538	62.2
ない	934	37.8
子育ての環境や支援への満足度		
中・高評価	1421	60.5
低評価	928	39.5
家計の状況		
ふつう・ゆとりある	1634	65.7
苦しい	852	34.3
母親の就労状況		
フルタイム	1053	43.7
パート・アルバイト・就労なし	1359	56.3
放課後児童クラブ		
利用できている・利用希望なし	2244	90.4
利用できていない	239	9.6

表 2. 地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因＜小学生の母親（経済的にゆとり・ふつう）＞

	満足度						aOR	95%CI	p値		
	低群		中高群		単変量解析 <sup>a</sup>					多変量解析 <sup>a</sup>	
	N=525	%	N=1014	%	p値						p値
児の学年											
低学年	182	38.9	286	61.1	0.01	1.42	1.12-1.79	0.004			
中・高学年	340	32.0	722	68.0		1.00					
兄弟の人数（本人含む）											
1人	166	37.9	272	62.1	0.047	1.15	0.89-1.48	0.28			
2人以上	246	32.7	507	67.3		1.00					
配偶者の有無											
あり	475	33.3	950	66.7		1.00					
なし	49	43.8	63	56.3	0.03	1.64	1.03-2.60	0.04			
主な子育ての担い手											
父母ともに	263	31.2	580	68.8		1.00					
主に母	237	37.4	396	62.6	0.01	1.13	0.89-1.43	0.31			
相談や協力先の相手											
どちらもある	475	33.9	926	66.1							
どちらかいない・いない	50	36.0	89	64.0	0.62						
子育てに自信持てないこと											
ある	339	38.6	540	61.4		1.00					
ない	183	28.0	470	72.0	<0.001	0.60	0.48-0.76	<0.001			
母親の就労状況											
フルタイム	238	37.1	403	62.9	0.03	1.34	1.06-1.69	0.01			
パート・アルバイト・就労なし	269	31.8	578	68.2		1.00					
放課後児童クラブ											
利用できている・利用希望なし	456	32.6	943	67.4		1.00					
利用できていない	63	49.6	64	50.4	<0.001	1.91	1.30-2.81	<0.001			

a: 2項ロジスティック回帰分析を用いて、満足度が低いことのオッズを算出した。

表3. 地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因<小学生の母親（経済的に苦しい）>

	満足度						単変量解析 <sup>a</sup>		多変量解析 <sup>a</sup>	
	低群		中高群		%	p値	aOR	95%CI	p値	p値
	N=397	%	N=392	%						
児の学年										
低学年	115	52.3	105	47.7		0.51				
中・高学年	129	51.0	124	49.0						
兄弟の人数（本人含む）										
1人	105	51.2	100	48.8		0.72				
2人以上	172	53.4	150	46.6						
配偶者の有無										
あり	315	49.9	316	50.1						
なし	82	51.9	76	48.1		0.66				
主な子育ての担い手										
父母ともに	185	52.3	169	47.7						
主に母	198	48.7	199	51.3		0.33				
相談や協力先の相手										
どちらもある	315	48.0	341	52.0			1.00			
どちらかいない・いない	82	61.7	51	38.3		0.004	1.72	1.17-2.53	0.004	
子育てに自信持てないこと										
ある	283	51.4	268	48.6						
ない	113	48.9	118	51.1		0.53				
母親の就労状況										
フルタイム	167	50.2	166	49.8		0.93				
パート・アルバイト・就労なし	152	50.7	148	49.3						
放課後児童クラブ										
利用できている・利用希望なし	335	49.0	349	51.0			1.00			
利用できていない	59	60.8	38	39.2		0.03	1.58	1.02-2.44	0.03	0.03

a: 2項ロジスティック回帰分析を用いて、満足度が低いことのオッズを算出した。

図 1. PCM 研修に参加した保健師の感想：研修評価アンケートの自由記載のテキスト解析

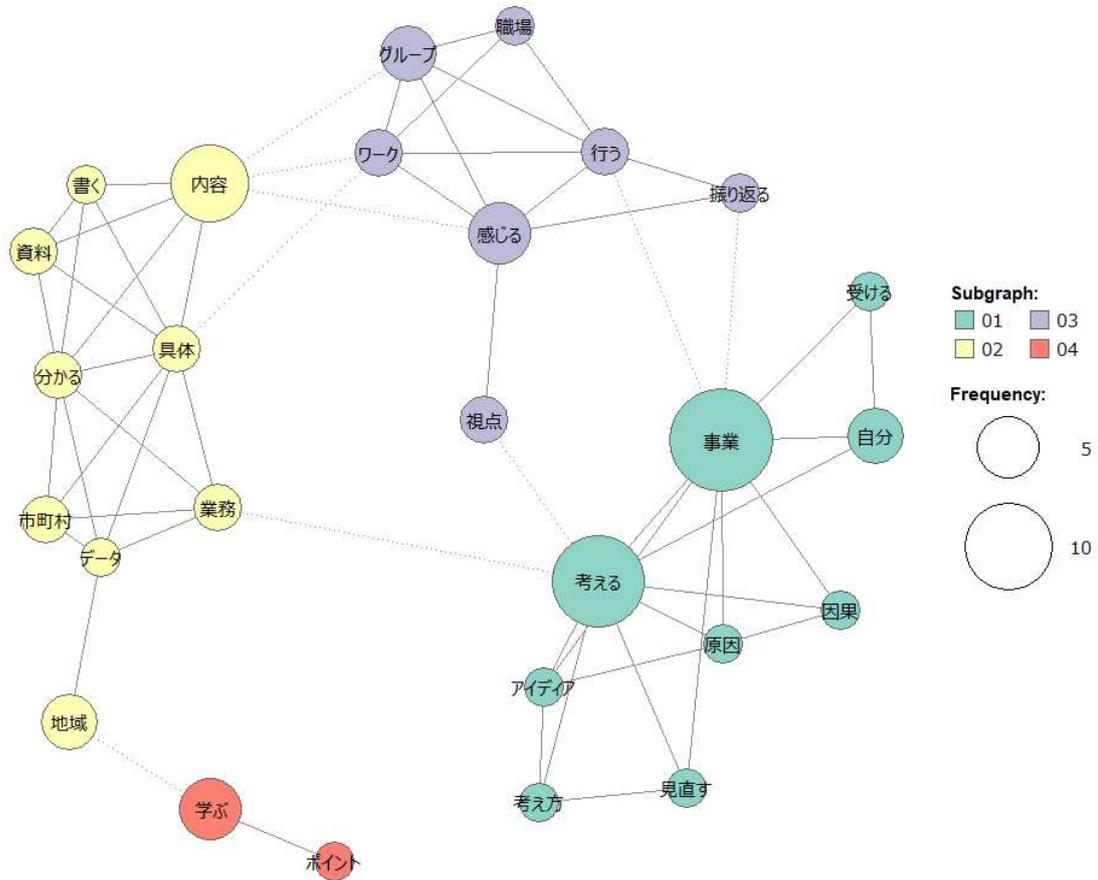


図 2-1. 放課後児童クラブ登録児童数の推移

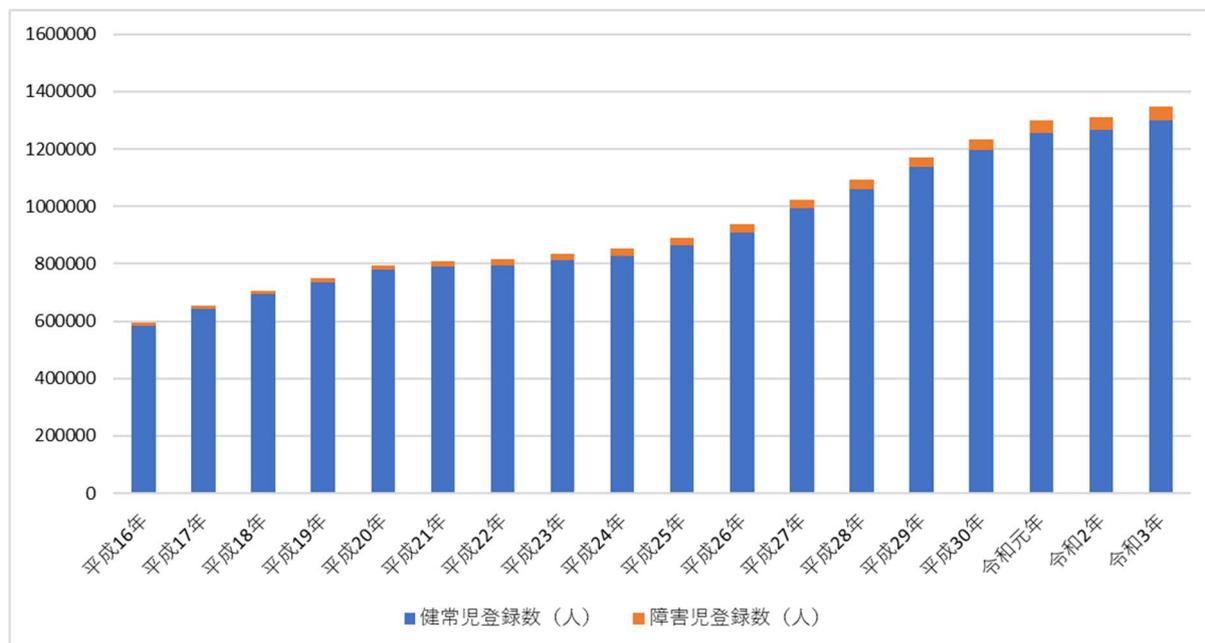


図 2-2. 放課後児童クラブ数の推移：障害児の受け入れ別

